

その他セクター

- ✓ 実践事例①: 京セラ株式会社(機械)
- ✓ 実践事例②: 株式会社セブン&アイ・ホールディングス(小売)
- ✓ 実践事例③: ライオン株式会社(一般消費財)

3-185

分析対象事業会社の選択



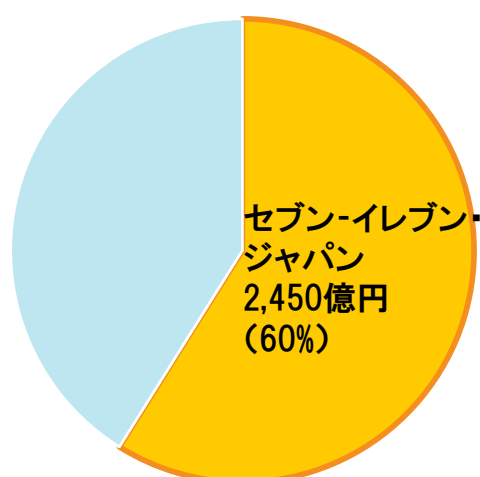
セブン&アイ HLDGS.

セブン&アイ・ホールディングスの連結営業利益の6割をしめる
セブン-イレブン・ジャパンの国内店舗を対象に分析

セブン&アイ・ホールディングス
連結営業利益4,115億円
(2019年2月期)



セブン-イレブン・ジャパンの概要
(2019年2月末現在)



営業総収入

8,735億55百万円

当期純利益

1,532億33百万円

営業利益

2,450億88百万円

チェーン全店売上(国内)

4兆8,988億72百万円

経常利益

2,529億17百万円

国内47都道府県に

21,005店舗を展開
(2019年7月末現在)

3-186

リスク・機会の重要度評価



セブン&アイHLDGS.

TCFDに挙げられているリスク・機会の項目をもとに、外部の見解を踏まえて、セブン・イレブン・ジャパンにおける「リスク・機会」を抽出

TCFDの「リスク・機会」項目

セブン・イレブン・ジャパンにおける「リスク・機会」

分類	TCFD リスク・機会項目
移行リスク・機会	炭素価格
	各国の炭素排出目標／政策
	省エネ政策
	化石燃料補助金
	再エネ等補助金政策
	エネルギーミックスの変化
	エネルギー需要推移
	重要商品／製品価格の増減
	低炭素技術の普及
	再エネ・省エネ技術の普及
	次世代技術の進展
	顧客の評判変化
	投資家の評判変化

分類	TCFD リスク・機会項目
物理的リスク・機会	急性 異常気象の激甚化
	慢性 平均気温の上昇
	慢性 降水・気象パターンの変化
	慢性 海面の上昇

- 外部の見解(例)
- ① SASB
 - ② EBRD
 - ③ Retail Industry Leaders Association "Retail Horizons Toolkit"
 - ④ CDP

分類	TCFD リスク・機会項目
移行リスク・機会	政策／規制 炭素価格
	政策／規制 各国の炭素排出目標／政策
	技術 技術導入による資源の効率化
	評判 顧客の評判変化
物理的リスク・機会	評判 投資家の評判変化
	急性 異常気象の激甚化
	慢性 降水・気象パターンの変化
	慢性 海面の上昇

3-187

リスク・機会の重要度の評価



セブン&アイHLDGS.

セブン・イレブン・ジャパンと「リスク・機会」の重要度を定性的に評価

重要度
大

【移行リスク・機会】

- ・炭素価格
- ・消費者の評判変化

- ・各国の炭素排出目標／政策

【物理的リスク・機会】

- ・異常気象の激甚化(急性)
- ・降水・気象パターンの変化(慢性)

重要度
中
～
小

【移行リスク・機会】

- ・技術導入による資源の効率化

【物理的リスク・機会】

- ・海面の上昇

重要度
小

【移行リスク・機会】

- ・投資家の評判変化

3-188

シナリオ群の定義

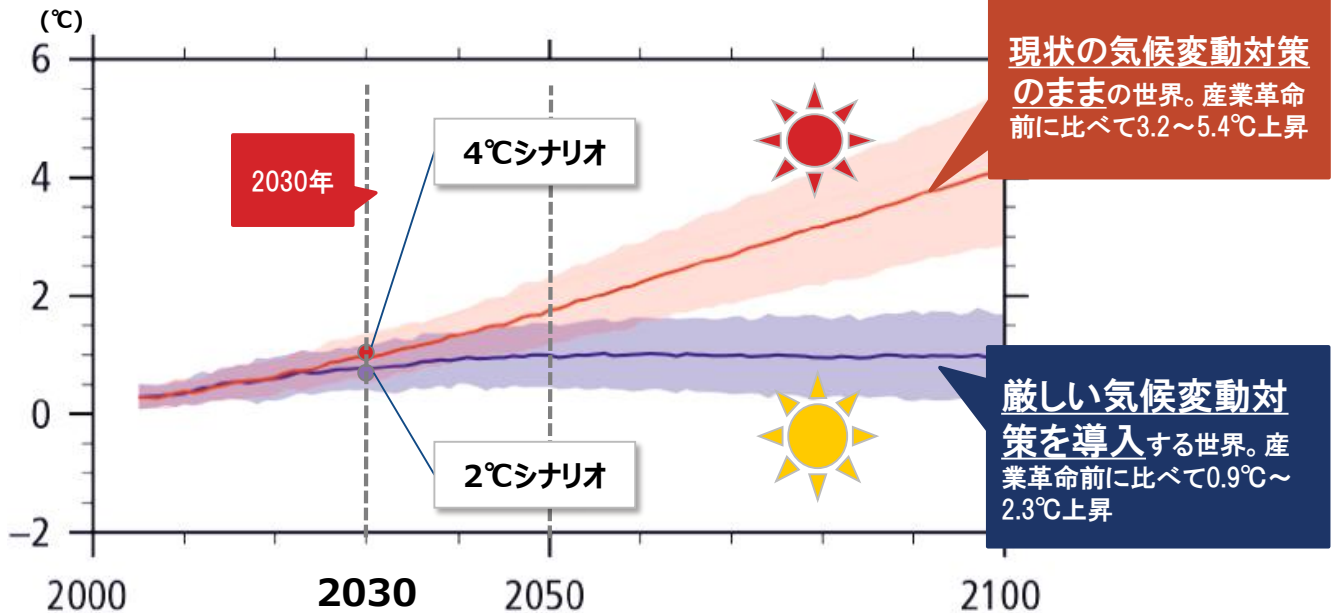


セブン&アイHLDGS.

代表的な科学的シナリオ「2℃シナリオ」「4℃シナリオ」で2030年を考察

※正確な将来予測は不可能なので、複数の異なる予測を使用

【世界平均地上気温変化(1986～2005年平均との差)】



(出所)AR5 SYR 図SPM.6 IEA

3-189

世界観の定義



セブン&アイHLDGS.

IEA等の科学的な根拠等に基づき世界観を定義

重要項目 (重要度高の項目)	想定パラメータ	現在	2030年		出所(一部抜粋)
			4℃	2℃	
炭素価格・ 各国の炭素排出 目標/政策	炭素価格	導入なし	4℃では採用なし	100ドル/tCO2	IEA
	GHG排出量目標値	207.5 百万tCO2	168 百万tCO2		環境省
	電力価格	216ドル/MWh	209ドル/MWh	231ドル/MWh	IEA
消費者の評判変化	サステナブル認証製品の売上	1,285億USD	2,967億USD		Nielsen等
	電気自動車の普及	保有台数割合 0.3%	保有台数割合 5%	保有台数割合 39%	次世代自動車復興センター
異常気象の激甚化	台風・サイクロンの発生頻度	-	不確実性高い (発生頻度は減少または変化なし、威力は増加 する可能性有)		気象庁、環境省
	豪雨の頻発	発生日数は2.5日	発生日数は3.0日	発生日数は2.5日	環境省
	洪水被害	36億USD/年	80億USD/年	2℃では採用なし	WRI
降水・気象パターン の変化	米(一等米)の収穫量の変化	〈基準年:2012年〉	7%減	5%減	三菱UFJリサーチ&コンサル ティング
	猛暑日の増加	〈基準年:2019年〉	年間+0.3日	年間+0.05日	環境省
	空調電力使用量の増加	〈基準年:2016年〉	1.7倍	1.6倍	IEA

3-190

シナリオ群の定義（2℃の世界・2030年）



セブン&アイHLDGS.

2℃の世界のセブン-イレブン・ジャパン



規制が強化され低・脱炭素化が進み、**移行リスク**が高まる



シナリオ群の定義（4℃の世界・2030年）



セブン&アイHLDGS.

4℃の世界のセブン-イレブン・ジャパン



異常気象などの**物理的リスク**が高まる



事業インパクトの評価（2℃の世界・2030年）

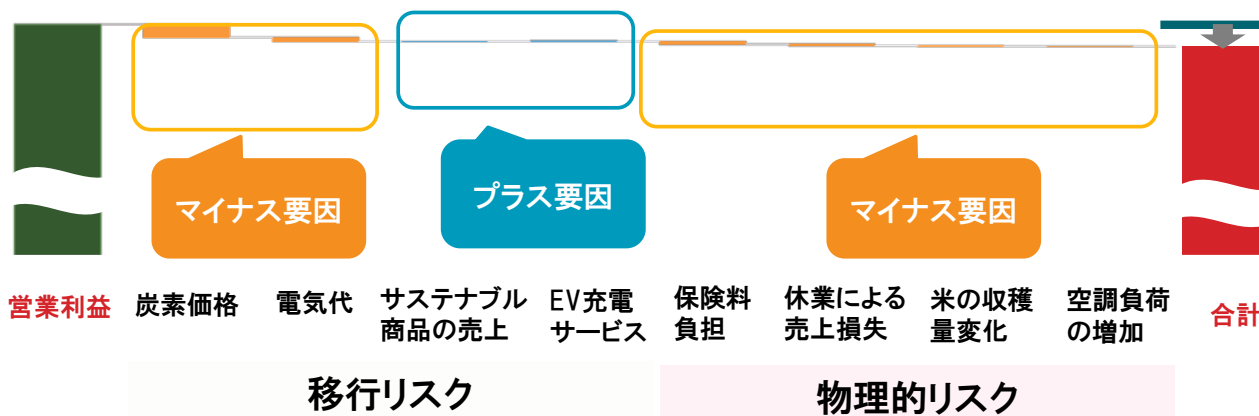


セブン&アイHLDGS.

重要度大と評価した各リスク・機会に関わる具体的な事例をピックアップし、インパクトを試算（成り行きの試算）

◆2℃の世界のインパクト

（億円）



規制が強化され低・脱炭素化が進み、炭素税や電気代の値上がりなどの**移行リスク**が高まる

3-193

事業インパクトの評価（4℃の世界・2030年）

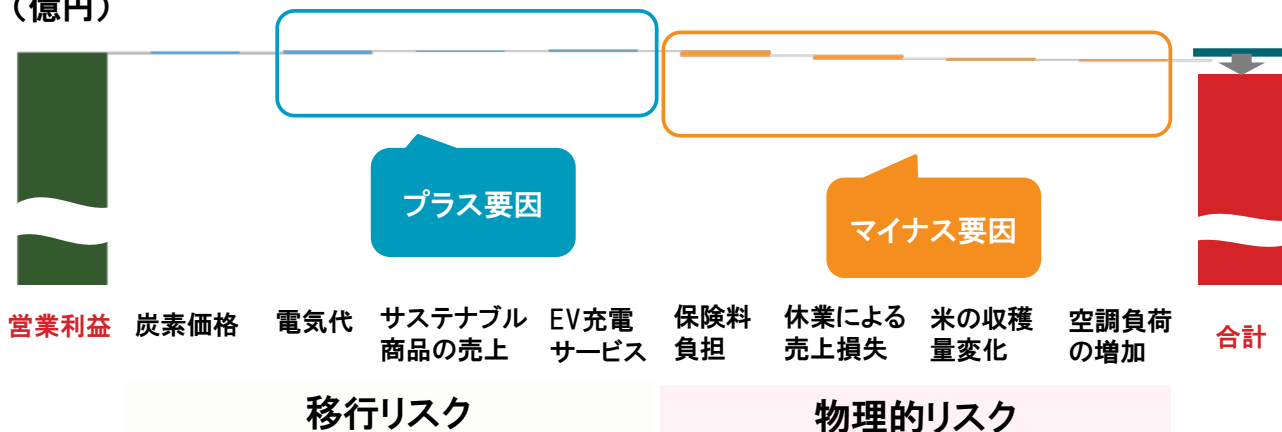


セブン&アイHLDGS.

重要度大と評価した各リスク・機会に関わる具体的な事例をピックアップし、インパクトを試算（成り行きの試算）

◆4℃の世界のインパクト

（億円）



異常気象の激甚化などで、保険料負担の増加や休業による損失などの**物理的リスク**が高まる

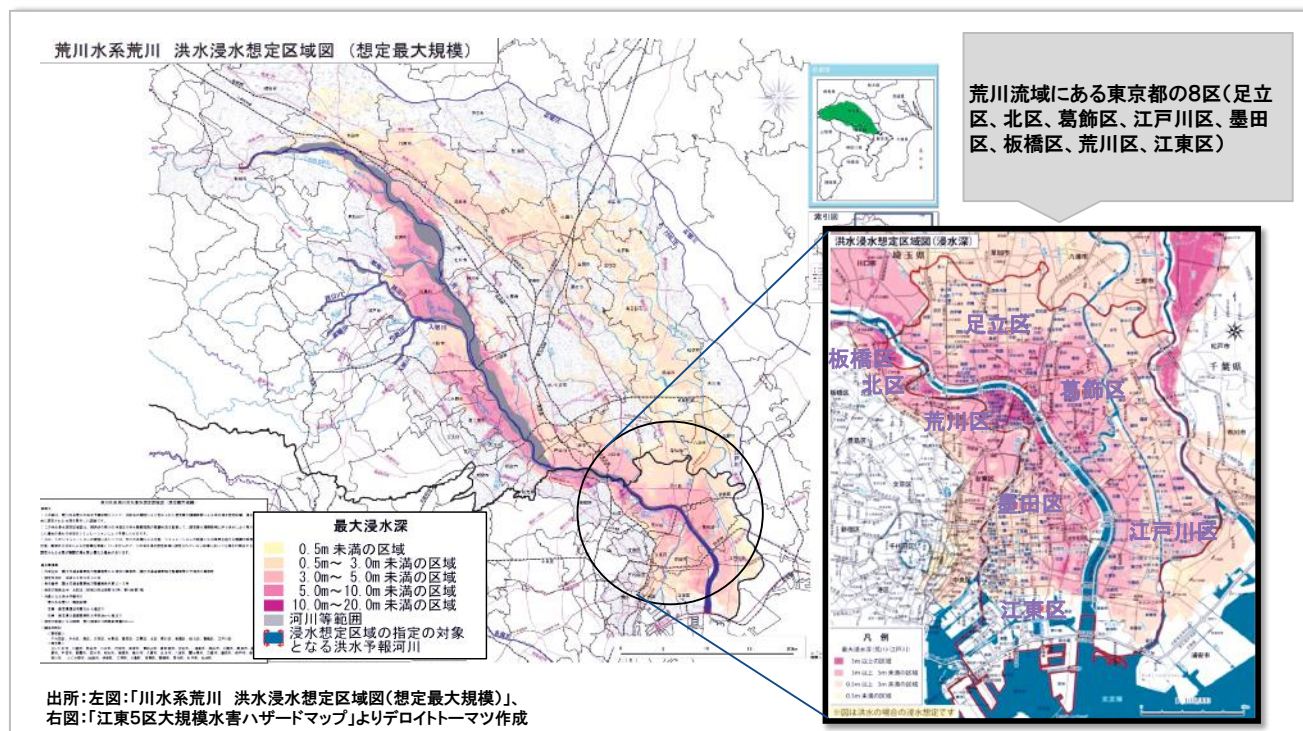
3-194

事業インパクトの評価 ー洪水リスクの評価



セブン&アイHLDGS.

荒川決壊時における洪水リスクをハザードマップを使い、流域にある東京都8区における店舗被害を評価



3-195

事業インパクトの評価 ー洪水リスクの評価



セブン&アイHLDGS.

◆浸水可能性のある店舗の割合

ハザードマップと国内店舗を重ねて、浸水可能性がある店舗の割合を試算。



災害対応の重要性増大



3-196

気候変動によるリスクを低減し、機会を拡大するための対応策

セブン-イレブン・ジャパンに大きな影響を与える項目

炭素価格

電気代

消費者の
評判変化

異常気象の
激甚化

降水・気象
パターンの変化

- 環境宣言「GREEN CHALLENGE 2050」の取り組み推進を通じて、リスクを低減していく
- 顧客接点となる店舗を起点とした対応策・施策を実施することで、セブン-イレブン・ジャパンらしく社会に貢献しつつ、ビジネスの機会を拡大していく

その他セクター

- ✓ 実践事例①: 京セラ株式会社(機械)
- ✓ 実践事例②: 株式会社セブン&アイ・ホールディングス(小売)
- ✓ 実践事例③: ライオン株式会社(一般消費財)